

要介護者の口腔内状況と 口腔ケアの必要性について

余呉町国保歯科診療所・歯科保健センター
大石 恵美子

高齢者/要介護者の残存歯の状況

高齢者歯科口腔保健実態調査 72歳中心 より

調査主体：全国国保直診歯科診療施設 29施設

調査対象者：対象地区の72歳および前後年齢の高齢者

総計2,968名(平均年齢 72.6歳)

平均残存歯数：**8.7本**

(男性：10本、女性：7.8本)

居宅生活者：**8.8本**

医療施設入院者：7.5本

福祉施設入所者：**4.0本**

日本の高齢者のう蝕罹患状況



要介護高齢者の口腔状況



8020運動はやめてほしい？

K · K Male 68Y

Cerebral infarction



K · K

2 years 6 months after



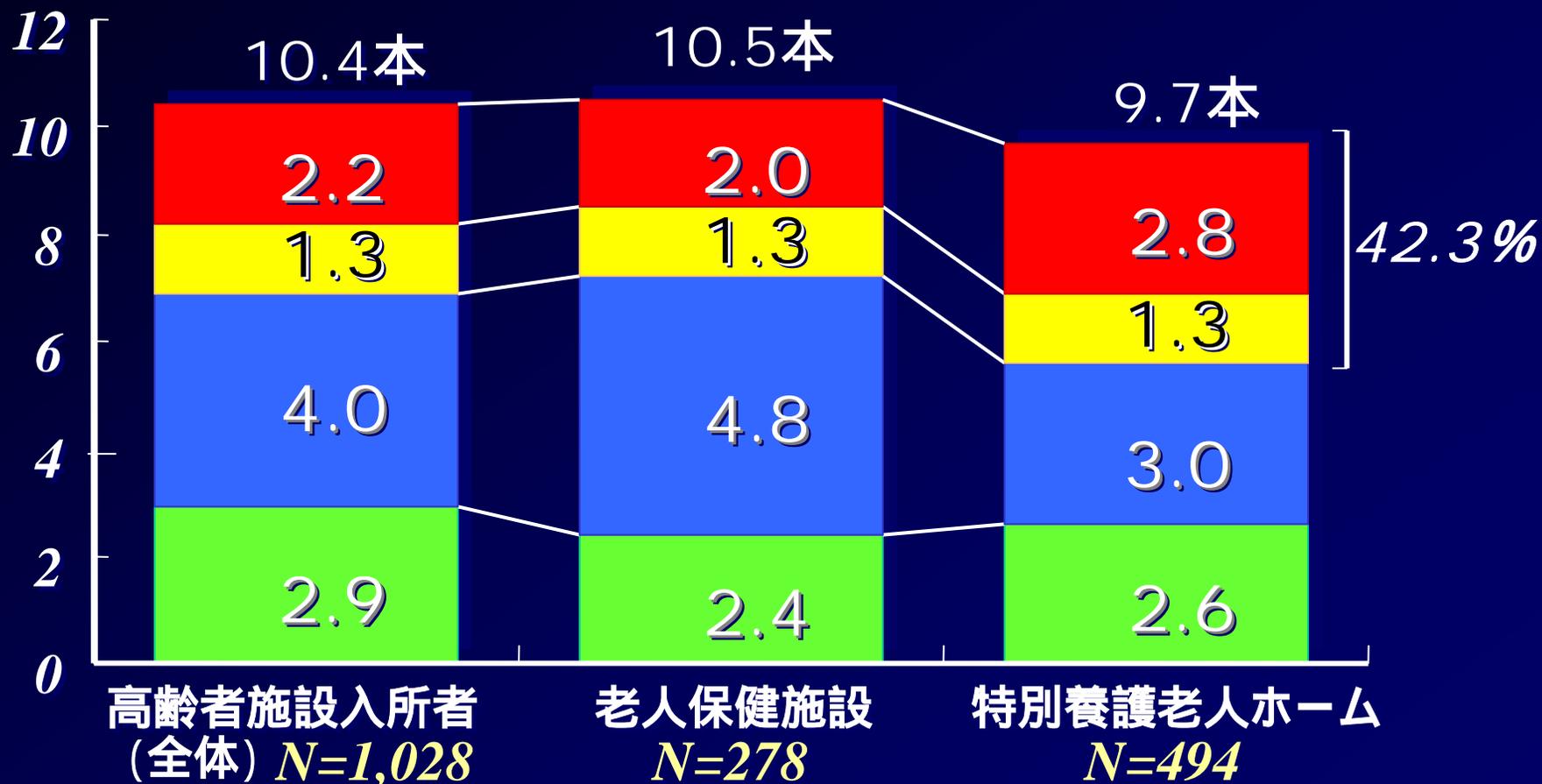
高齢者施設入所者のう蝕罹患の状況

高齢者施設における歯科口腔保健実態調査(平成8年度)より

■健全歯 ■処置歯 ■未処置歯 ■残根

*有歯顎者

本数



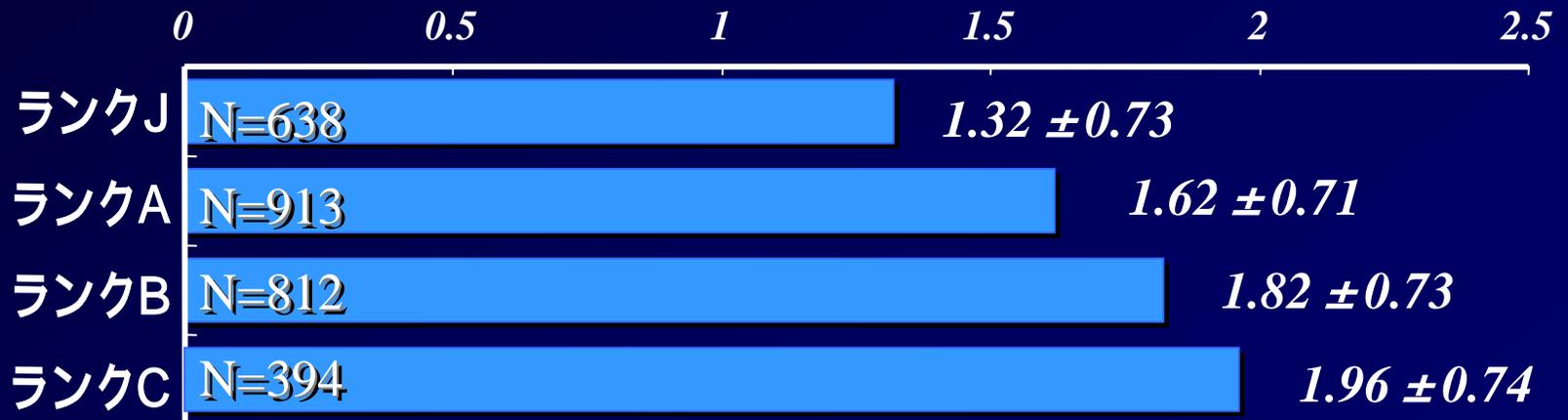
日常生活自立度と歯の清掃度、歯肉炎症度

高齢者施設における歯科口腔保健実態調査(平成8年度)より

Plaque Index(Löe & Silness)



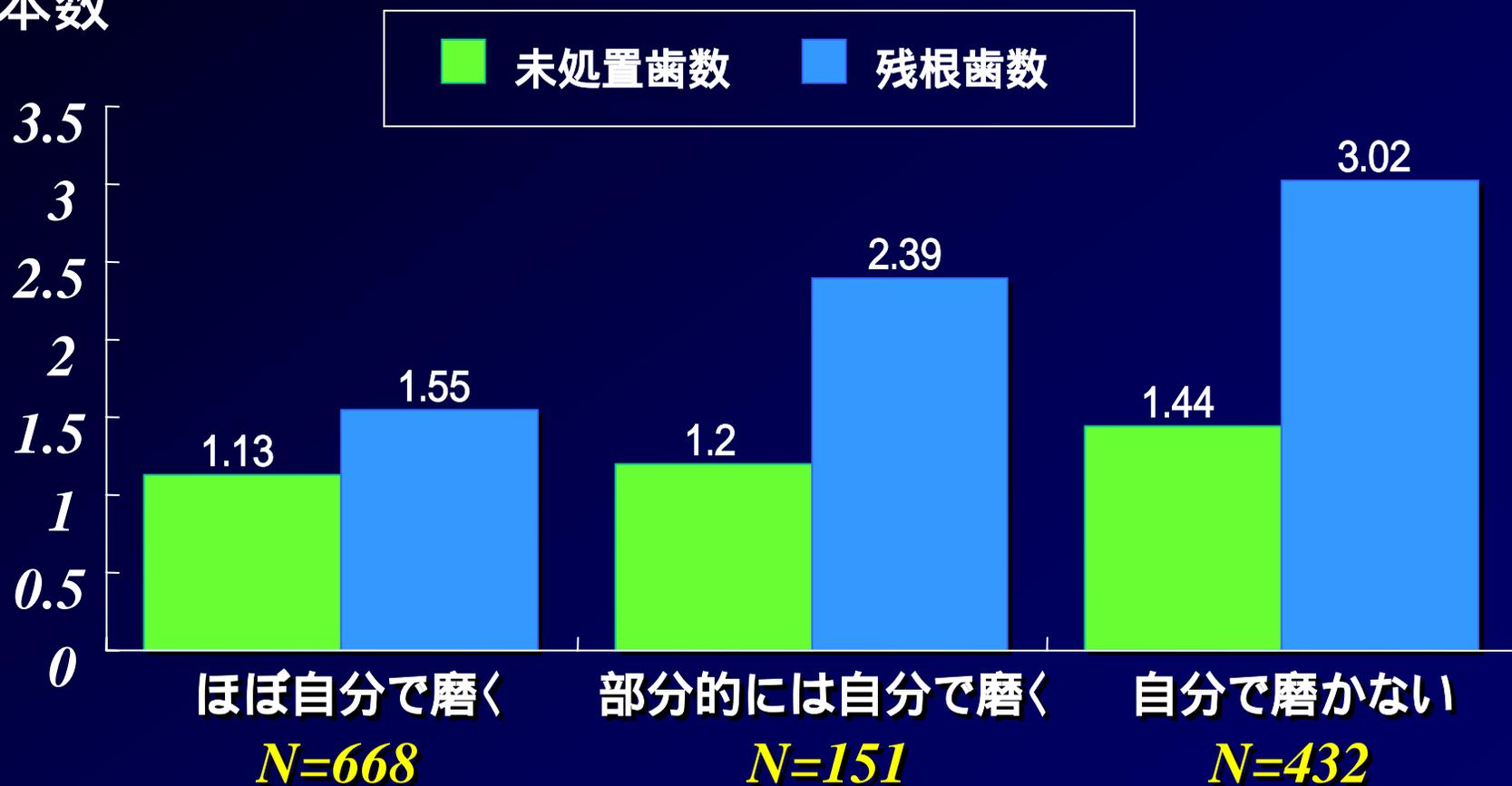
Gingival Index (Silness & Löe)



歯みがきの自立度とう蝕罹患状況

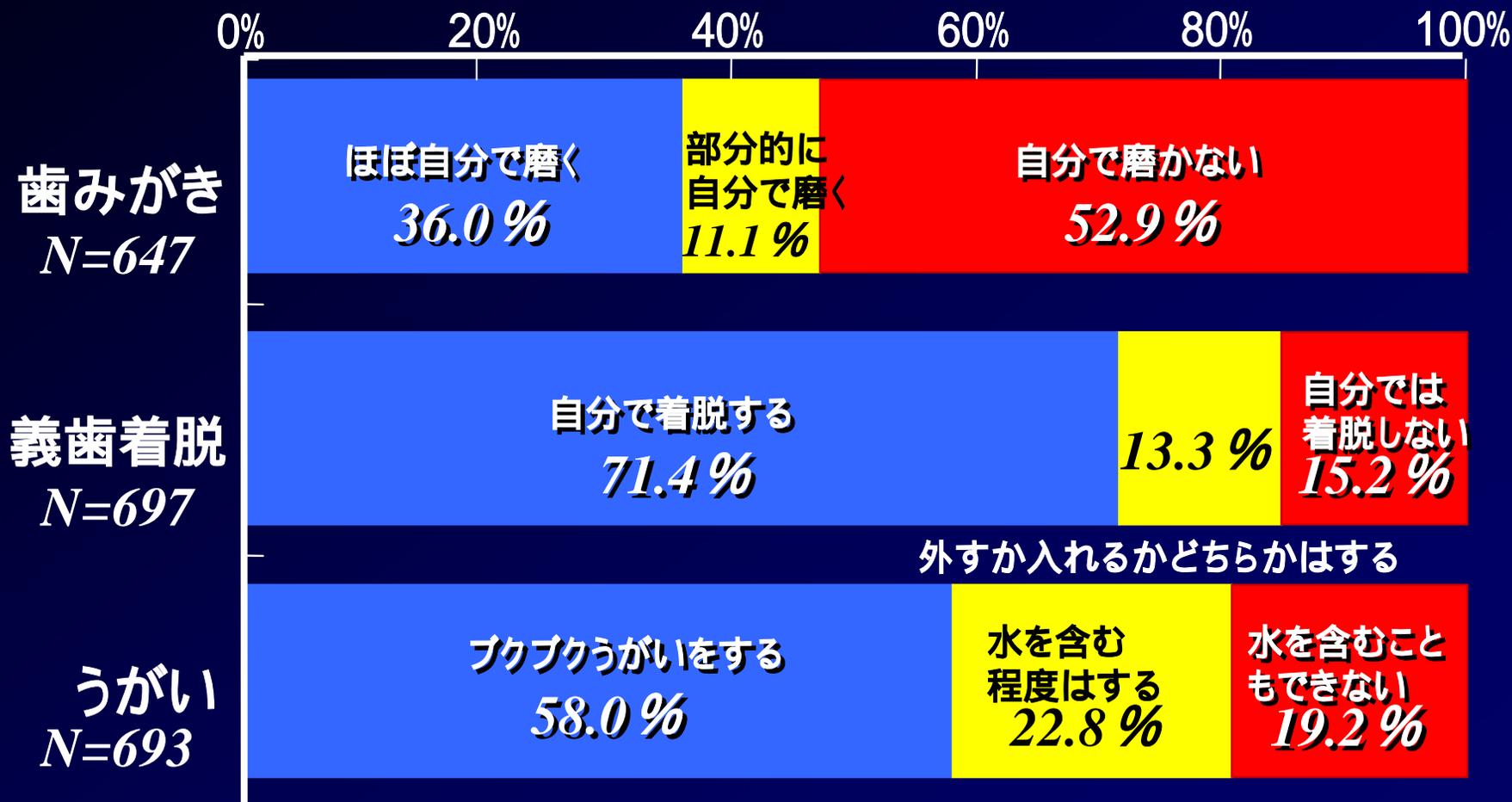
高齢者施設における歯科口腔保健実態調査(平成8年度)より

本数



特別養護老人ホーム入所者の口腔清掃自立度

高齢者施設における歯科口腔保健実態調査(平成8年度)より



要介護認定者の残存歯の状況

介護保険制度の円滑適正な実施に資するための
歯科口腔情報提供モデル事業 より

調査主体：全国国保直診診療施設 43施設

調査対象者：対象地区の要介護認定者を訪問調査

居宅療養者 1,174名 平均年齢 80.4歳

◆有歯顎者：50.8%

◆現在歯数：5.8本（有歯顎者11.3本）

施設入所者 453名 平均年齢 82.7歳

◆有歯顎者：46.6%

◆現在歯数：5.0本（有歯顎者10.9本）

要介護認定者のう蝕罹患の状況

介護保険制度の円滑適正な実施に資するための
歯科口腔情報提供モデル事業 より

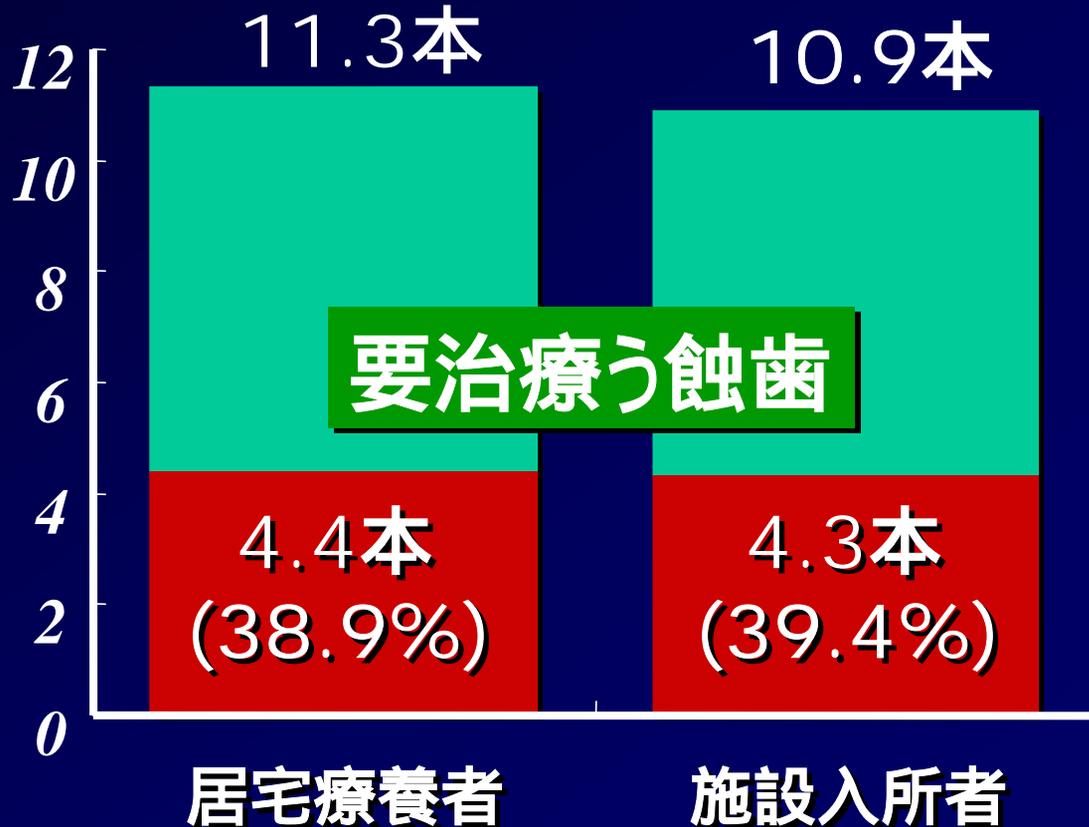
要治療う蝕を有する者

居宅療養者

318名 (53.4%)

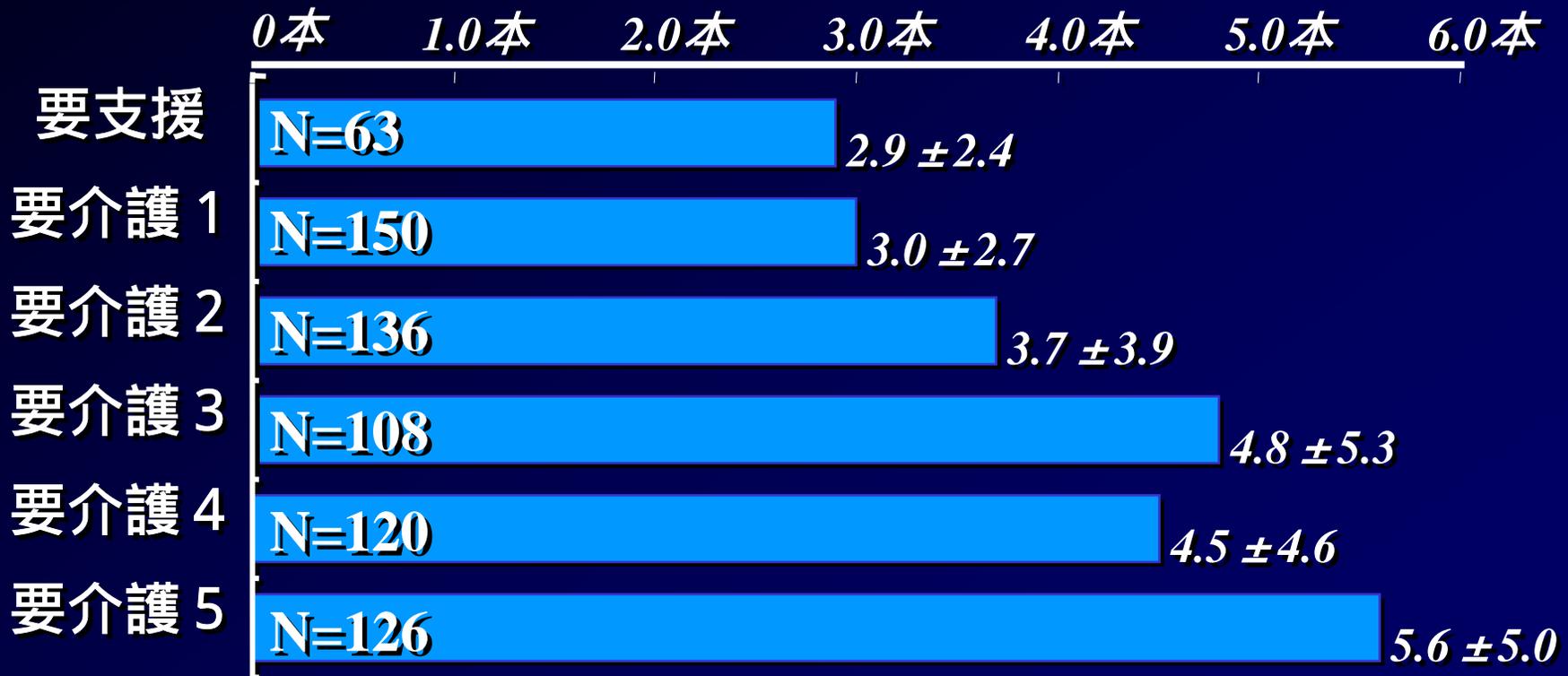
施設入所者

127名 (60.2%)



要介護度別、要治療う蝕数

介護保険制度の円滑適正な実施に資するための
歯科口腔情報提供モデル事業 より



高齢者/要介護者は口腔に影響を及ぼす薬剤をたくさん服用している

特に口腔乾燥をきたす可能性のある薬剤が多く、う蝕発生のリスクを高くしている

在宅要介護高齢者への投薬状況と 薬剤の口腔への影響について

調査対象：在宅要介護高齢者173名

薬剤投与状況

- 薬剤投与を受けている者：164名(94.8%)
- 把握できた薬剤数：760剤(293製品)
- 一人平均投与薬剤数：4.4剤(0～12)

口腔に影響を及ぼす可能性がある薬剤の投与状況

- 被投与者数：148名(86.5%)
- 口腔に影響を及ぼす可能性がある薬剤数：
494剤(181製品)
- 一人平均投与薬剤数：2.9剤(0～9)

口腔への影響項目別、被投与者数、投与薬剤数(N=173)

口腔への影響	被投与者数 (%)	被投与薬剤数	一人平均数	最多投与数
口腔乾燥	132(76.3%)	370	2.1	9
口内炎	104(60.1%)	175	1.0	5
舌炎・舌の浮腫	57(32.9%)	72	0.42	3
味覚異常	51(29.5%)	67	0.39	2
歯肉増殖	46(26.6%)	55	0.32	4
出血時間延長	43(24.9%)	48	0.28	3
嚥下障害	27(15.6%)	32	0.18	3
口内しびれ感	22(13.9%)	24	0.14	2
流涎	21(12.1%)	22	0.13	2
オーラルディスキネジア	15(8.7%)	17	0.1	2

日本医薬品集(日本医薬品情報センター編)参照

口腔乾燥をきたす可能性のある薬剤の投与状況

(製品数:144、総薬剤数:370)

順位	薬効分類	薬剤総数	製品数	医薬品一般名 (最多投与薬剤)	医薬品商品名
1	血圧降下剤	49	20	ニフェジピン	アタラートL
2	消化性潰瘍用剤	42	7	ファモチジン	ガスター
3	催眠鎮静剤・抗不安剤	41	15	トリアゾラム	ハルシオン
4	利尿剤	31	5	フロセミド	ラシックス
5	抗パーキンソン剤	27	9	塩酸アマンタジン	シンメレル
6	血管拡張剤	17	6	ベジル酸アムロジピン	リバスク
7	解熱鎮痛消炎剤	16	10	ジクロフェナクナトリウム	ボルタレン
8	去たん剤	15	1	カルボシステイン	ムコダイン
9	抗てんかん剤	13	5	バルプロ酸ナトリウム	デパケン
10	副腎ホルモン剤	11	2	プレドニゾン	プレドニン
11	合成抗菌剤	10	4	レボフロキサシン	クラビット
11	精神神経用剤	10	9	塩酸ドレスピン	プロチアジン

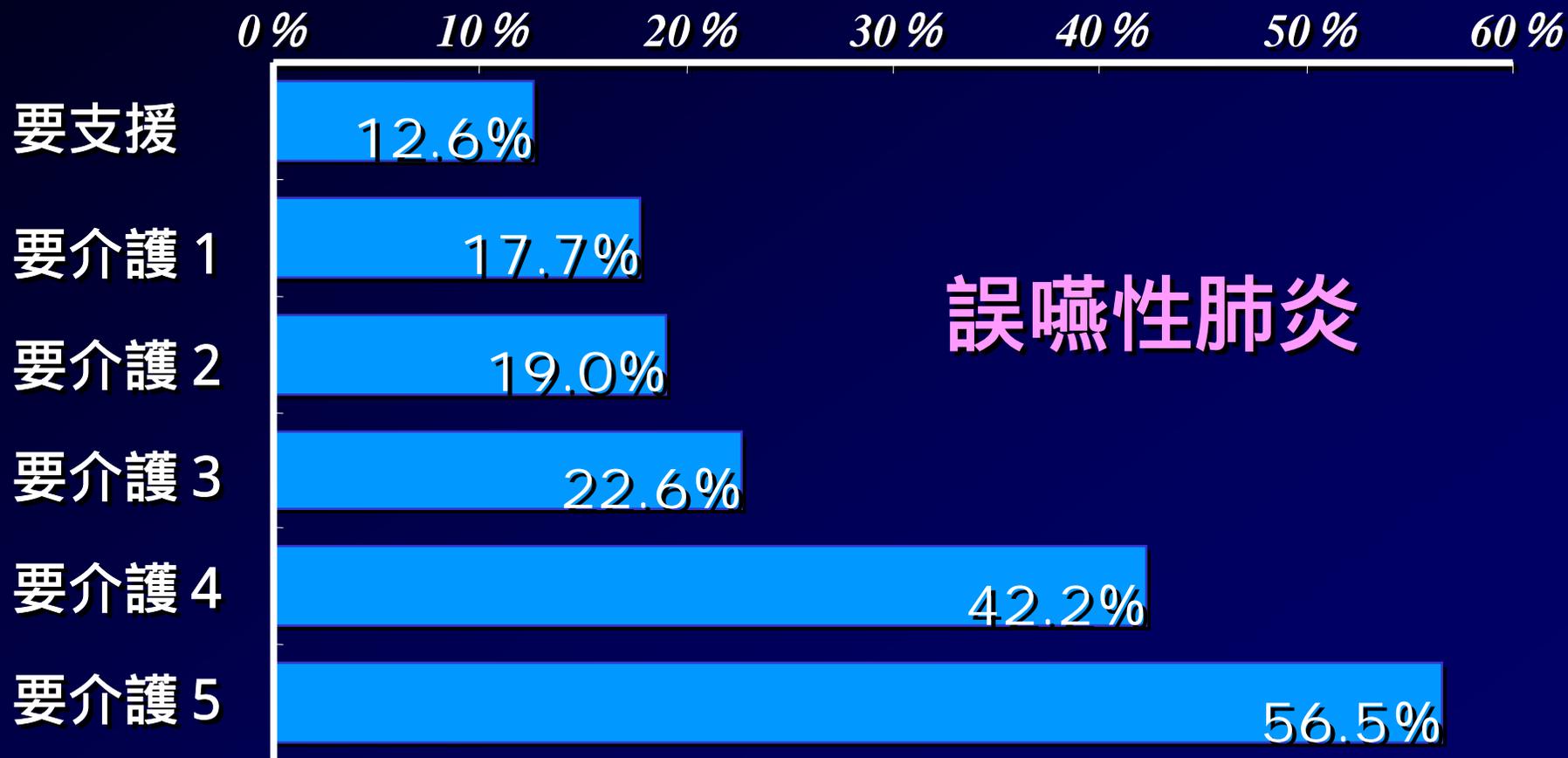
高齢者の死因の第1位は肺炎である



要介護者は口腔衛生状態が不良である
ために誤嚥性肺炎を起こすことが多い

現在または将来、発生の可能性が高い口腔問題

介護保険制度の円滑適正な実施に資するための
歯科口腔情報提供モデル事業 より



要介護度別、解決すべき口腔問題の頻度順位 (推奨する口腔ケアプランより)

	1位	2位	3位	4位	5位
要支援	口腔清掃状況が不良である	義歯清掃不良	自分で口腔清掃が十分できない	歯肉に炎症がある	誤嚥性肺炎の危険
要介護1	口腔清掃状況が不良である	義歯清掃不良	自分で口腔清掃が十分できない	歯肉に炎症がある	嚥下障害がある
要介護2	口腔清掃状況が不良である	義歯清掃不良	自分で口腔清掃が十分できない	歯肉に炎症がある	誤嚥性肺炎の危険
要介護3	口腔清掃状況が不良である	義歯清掃不良	自分で口腔清掃が十分できない	誤嚥性肺炎の危険	歯肉に炎症がある
要介護4	口腔清掃状況が不良である	自分で口腔清掃が十分できない	誤嚥性肺炎の危険	義歯清掃不良	嚥下障害がある
要介護5	口腔清掃状況が不良である	誤嚥性肺炎の危険	自分で口腔清掃が十分できない	嚥下障害がある	義歯清掃不良

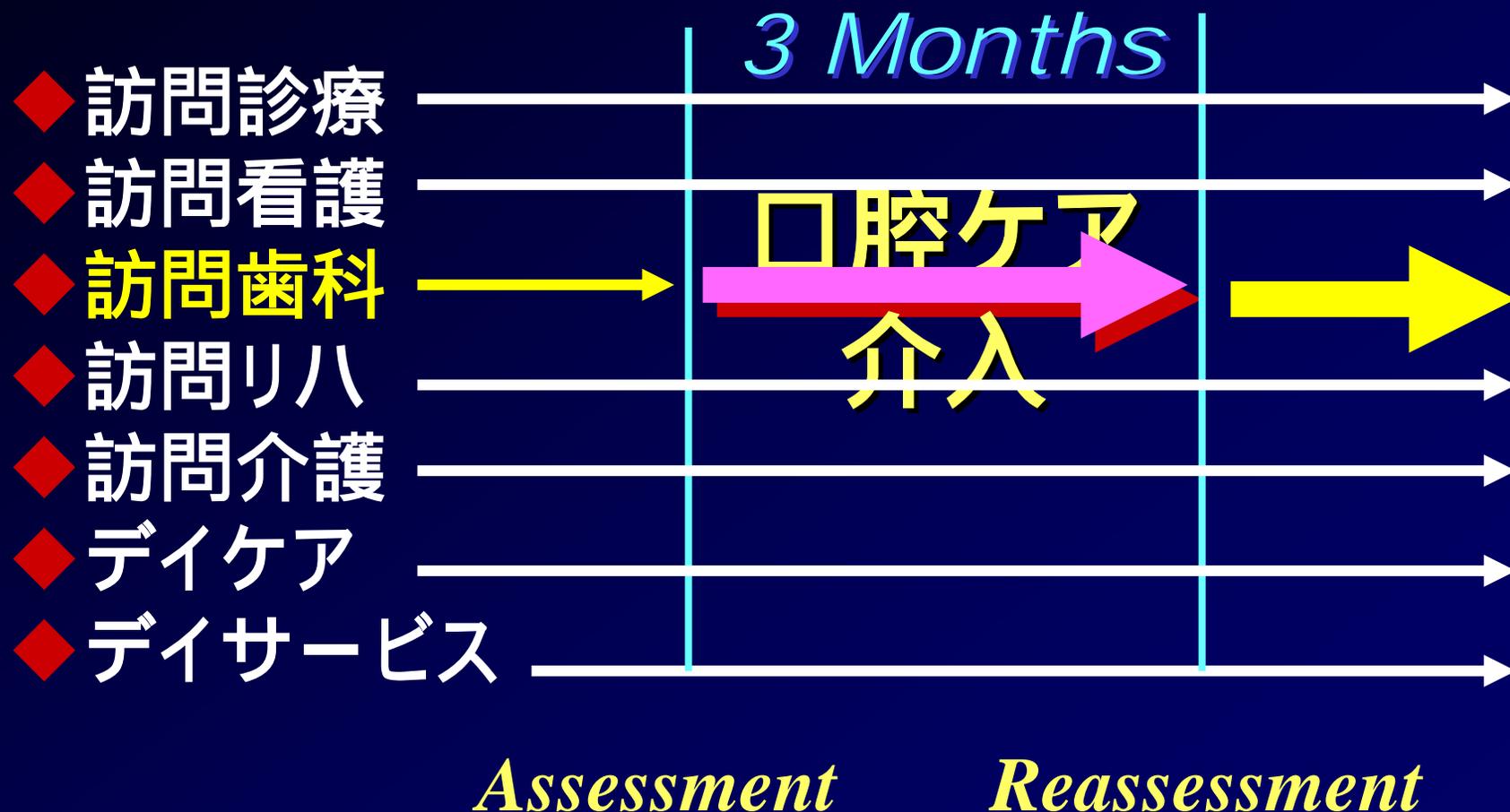
介護保険制度の円滑適正な実施に資するための歯科口腔情報提供モデル事業

口腔ケアの効果は？

口腔ケアは口腔の状態を改善する
のみならず全身の健康に影響する

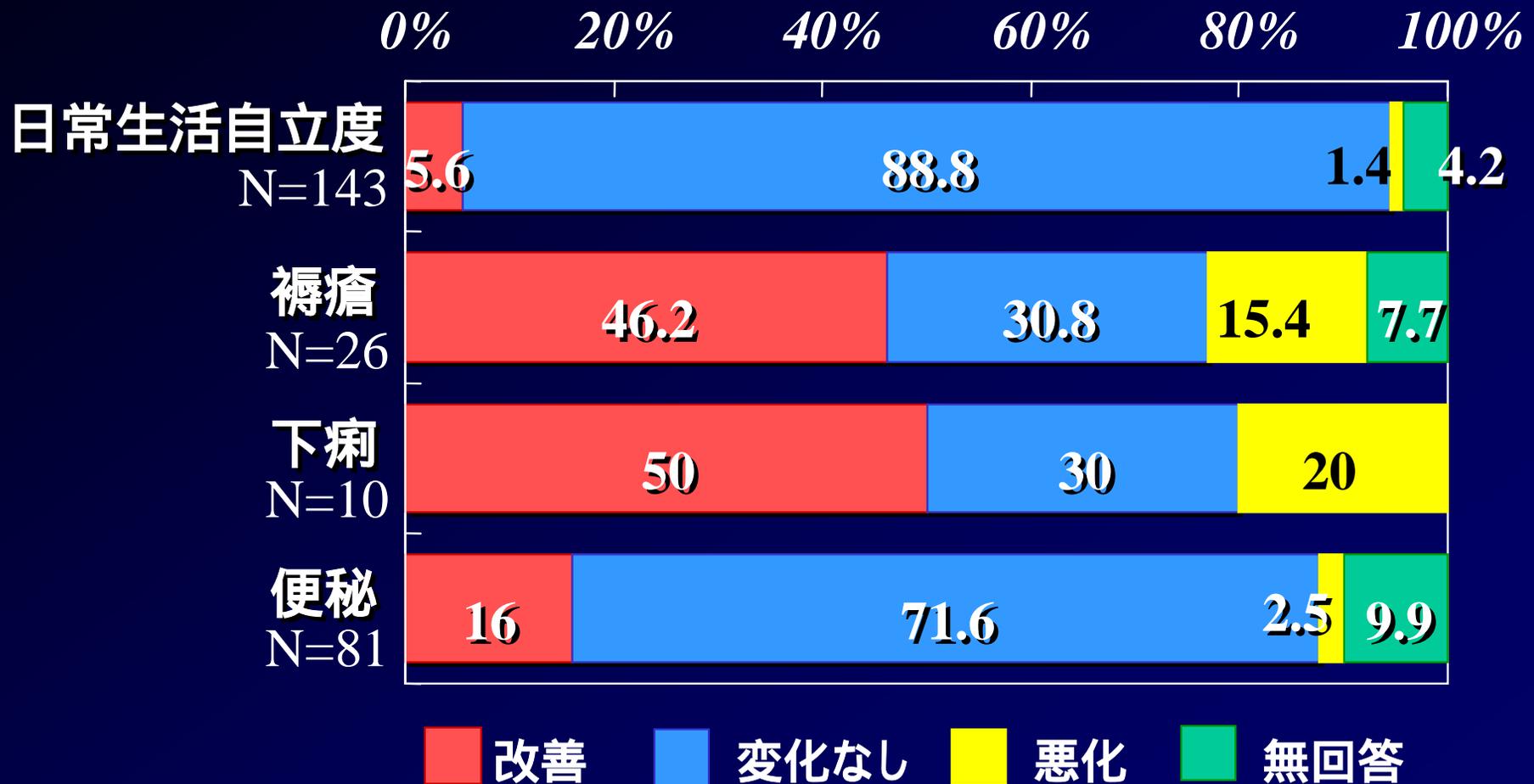
平成10年度高齢者在宅口腔介護サービスモデル事業

研究デザイン



在宅要介護者に対する口腔ケアの効果判定

平成10年度 高齢者在宅口腔サービスモデル事業より



再評価時に「変化なし」のうち、初回アセスメント時に「自立」または「異常なし」を除く

Bed sore

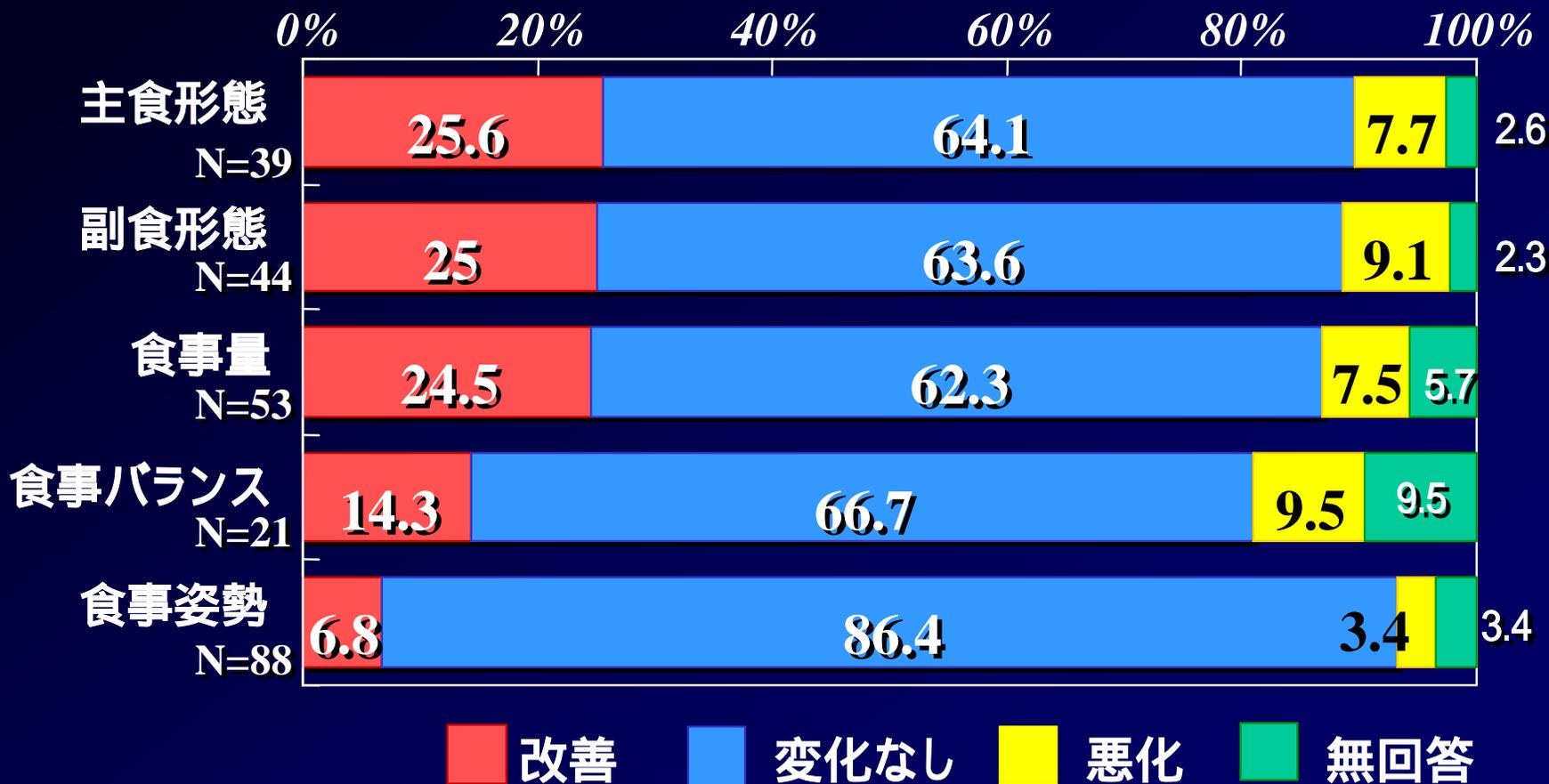
is healed with nutritional status



在宅要介護者に対する口腔ケアの効果判定

(食事に関するもの)

平成10年度 高齢者在宅口腔サービスモデル事業より



再評価時に「変化なし」のうち、初回アセスメント時に「自立」または「異常なし」を除く

介護保険制度における歯科サービスの 利用状況に関する調査

■調査対象：香川県下の全居宅介護支援事業所

■調査期間：平成12年8月

■アンケート回答件数：**102**件（回収率53.4%）

■ケアマネジメント担当ケース数：

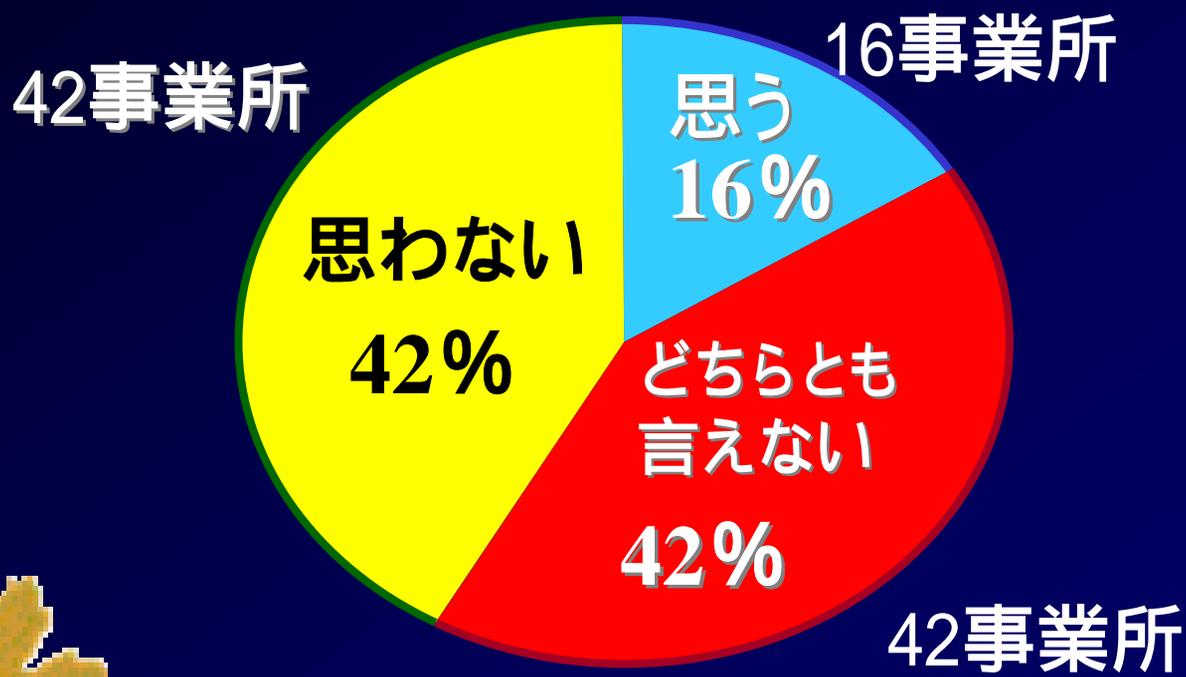
6,938ケース（1事業所あたり **68.7**ケース）

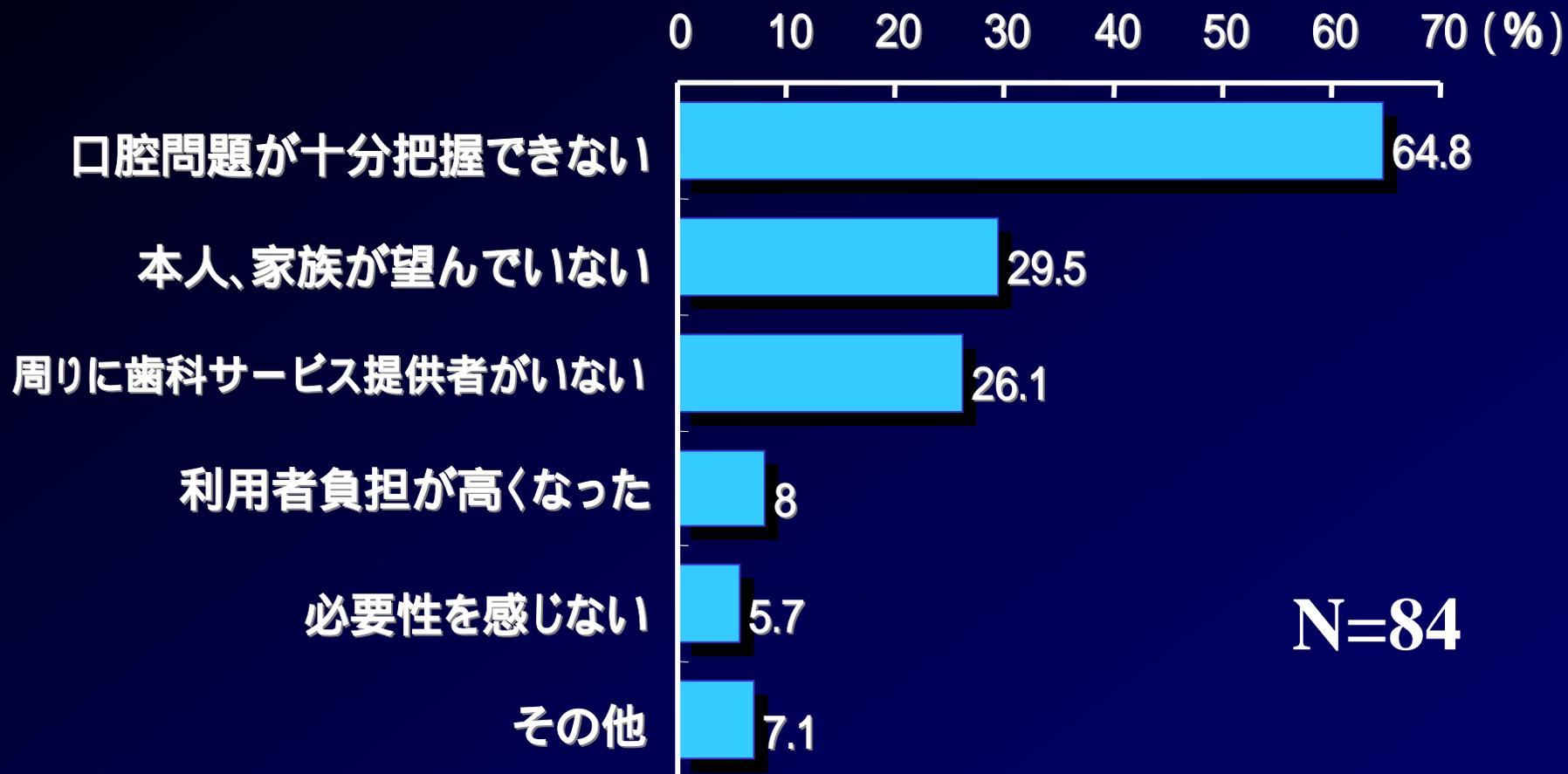
■歯科サービス（居宅療養管理指導 歯科医師による，
または，歯科衛生士による）の利用状況

利用件数：**57**件（18事業所 - 17.6%）

全ケースに占める割合：**0.82**%

Q.介護保険において歯科サービスが適正に供給されていると思いますか





介護保険において歯科サービスが適正に
供給されていない理由

高齡者に対する“Care”の役割分担

地域全体での支援



Water Fluoridation



我が国は世界に例をみないスピード で高齢化が進んでいる

65歳以上の人口比率が7%から14%に到達する年数



要介護者は2000年で280万人、
2025年には520万人になる